

科目名	応用行動分析学特論	担当教員	松崎 敦子
科目属性	専門科目 C	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
【授業の目的・ねらい】			
【授業概要】			
この授業では応用行動分析学の基本的概念を確認した上で、「関係フレーム理論」を理解し、ヒトの行動を変容させる方法を考えます。そして各々が臨床場面で関わる子どもや家族の問題を機能的・文脈的観点から分析し、その問題に対応するためのアプローチ方法を考えます。			
【授業の到達目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 応用行動分析学の基本的原理を理解する。 2. 応用行動分析からみた言語と認知：関係フレーム理論を理解する。 3. 臨床場面で体験している（した）対象者やその家族の問題を、機能的・文脈的観点から理解する。 4. 対象者やその家族が問題に対応するためのアプローチ方法を論理的に導き出す。 			
【授業計画】			
全 15 回の授業計画は以下の通りです。			
第 1 回：認知・行動療法，行動的心理療法、機能的文脈主義についての概要			
第 2 回：問題を行動のカタチ（形態）から捉える			
第 3 回：行動を観察する			
第 4 回：文脈の中で行動を捉える			
第 5 回：レスポナント条件付け			
第 6 回：オペラント条件付け（1）			
第 7 回：オペラント条件付け（2）			
第 8 回：関係フレームづけ（1）			
第 9 回：関係フレームづけ（2）			
第 10 回：ABC 分析を応用する			
第 11 回：機能分析と行動変容に向けての会話			
第 12 回：3 つの原理と実践をつなぐ			
第 13 回：実践の原則（1）			
第 14 回：実践の原則（2）			
第 15 回：行動分析学で考える言語行動と学習、そして私たちの日常			
【評価方法】			
スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（レポート方式；50%）を総合して評価します。			
【教科書】			
ユーナス ランメロ/ニコラス トールネケ著、松見淳子監修、武藤崇/米山直樹監訳（2010 年） 「臨床行動分析の A B C」日本評論社（ISBN-13：978-4535983007）			
【参考図書】			
＜応用行動分析学の基本を学ぶ＞			
杉山尚子/島宗理/佐藤方哉/リチャード W マロット/マリア E マロット著（1998 年）「行動分析学入門」産業図書（ISBN-13：978-4782890301）			
レイモンド G ミルテンバーガー著、園山繁樹/野呂文行/渡部匡隆/大石幸二翻訳（2011 年）「行動変容法入門」二瓶社（ISBN-13：978-4861080258）			
＜応用行動分析学の応用を学ぶ＞			
芝田寿美男著（2017 年）「臨床行動分析のすすめ方—ふだんづかひの認知行動療法」岩崎学術出版社（ISBN-13：978-4753311231）			
ジョンベイリー/メアリーバーチ著、澤幸祐/松見淳子翻訳（2017 年）「行動分析的“思考法”入			

門 生活に変化をもたらす科学のススメ」岩崎学術出版社 (ISBN-13: 978-4753311224)
ニコラス トールネケ著、山本淳一監修、武藤崇/熊野宏昭監訳 (2013年) 「関係フレーム理論
(RFT) を学ぶ」星和書店 (ISBN-13: 978-4791108626)
ラス ハリス著、武藤崇監修・翻訳、岩淵デボラ/本多篤/寺田久美子/川島寛子翻訳 (2012年)
「よくわかる ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー) 明日からつかえる ACT 入
門」星和書店 (ISBN-13: 978-4791108190)
ラスハリス著、岩下慶一翻訳 (2015年) 「幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない:
マインドフルネスから生まれた心理療法」筑摩書房 (ISBN-13: 978-4480843074)